

工業用水道事業の資金収支見通し等（千葉県工業用水道事業中期経営計画）

◎ 資金収支見通し

○ 料金収入は横ばいで推移していく一方、各種の取組により維持管理費等の費用が減少するため、収支差はプラス基調で推移する見込みです。

（単位：億円）

	H21年度 ()内は決算見込み額	H22年度	H23年度	H24年度	H22～24 年度の計	H25～27年度 【 ()内は年平均 】
【収入】	187 (178)	192	174	168	534	457 (152)
料金収入等 注1)	130 (143)	130	131	131	392	394 (131)
企業債借入金	40 (34)	47	29	25	101	34 (11)
その他 注2)	17 (1)	15	14	12	41	29 (9)
【支出】	186 (161)	190	171	187	548	424 (141)
維持管理費	59 (51)	57	55	53	165	162 (54)
建設改良費 注3)	20 (12)	22	18	17	57	34 (11)
貯水施設費 注4)	13 (11)	29	13	7	49	20 (7)
企業債償還金等 注5)	89 (79)	77	81	106	264	196 (65)
その他	5 (8)	5	4	4	13	12 (4)
収支差	1 (17)	2	3	△ 19	△ 14	33 (11)
<企業債残高>	<476> (457)	<484>	<476>	<463>	—	27年度末 <393>
<保有資金>	< 79> (147)	< 82>	< 85>	< 66>	—	27年度末 < 99>

注1) 「料金収入等」とは、水道料金、受水負担金をいいます。

注2) 「その他」とは、工事負担金収入、固定資産の売却代金などをいいます。

注3) 「建設改良費」とは、施設の更新、改築作業のための支出をいいます。

注4) 「貯水施設費」とは、ダム、導水路等水源の開発のための支出をいいます。

注5) 「企業債償還金等」には、水資源機構への償還金の支払い及び一般会計等への返還金を含みます。

注6) 端数処理の関係で、合計値が合わないところがあります。

◎ 主な資産・負債の将来見込み

- 主な資産と負債を比較すると、資産の額が大きくなっていますが、これは工業用水を供給するための施設(浄水場、配水管など)や、取水するための権利(ダム使用权、水利権など)が固定資産として計上されているためであり、その財源として企業債等の借入資金を活用しています。
- 今後も、安定給水に努め、料金収入を確保することにより、負債を計画的に返済していくこととしています。

(単位:億円)

	H21年度末の主な 資産・負債状況 【()内は決算見込み額】	H24年度末の主な 資産・負債状況 (想定)	H27年度末の主な 資産・負債状況 (想定)
【資産】	2,489 (2,524)	2,406	2,349
保有資金	79 (147)	66	99
固定資産	2,410 (2,377)	2,340	2,250
【負債】	975 (951)	856	727
企業債残高	476 (457)	463	393
年賦未払金残高 <small>注)</small>	114 (109)	59	31
他会計借入金残高	385 (385)	334	303

注) 「年賦未払金残高」とは、水資源機構へ償還すべき金額の残高をいいます。